

「紙パックリサイクル年次報告書2007」 発行にあたって

限りある資源を有効に利用して、美しい地球の環境と豊かで恵まれた生活を未来の子どもたちに引き継いでいくためには、環境と経済が両立した持続可能な循環型社会を構築していくことが必要であり、そのためには、廃棄物の発生を抑制し、再使用し、再生利用する「3R」を、関係者が連携して促進していくことが求められています。

紙パックは、「うえる・そだてる・つかう」ことにより再生可能な森林資源を有効利用して作られている環境性の高い容器であり、また中身を飲用に供した後は、「洗って・開いて・乾かして」分別回収することにより、良質な資源として再生利用が可能です。このことから、紙パックのリサイクルは森林資源の節約ばかりでなく、エネルギー使用やCO₂排出などの環境負荷の低減に大きく寄与します。

紙パックリサイクルは、20年以上も前から『全国牛乳パックの再利用を考える連絡会』をはじめとして、多くの市民グループ、自治体、関係事業者の方々のご努力により、さまざまな方法で自主的にかつ効率的に行われており、その回収率は年々増加し、2005年度の回収率は36.2%に向上しました。昨年6月には容器包装リサイクル法が改正され、本年4月に施行されます。この改正趣旨に沿って、全国牛乳容器環境協議会では2005年4月に設定した「2010年度に紙パック回収率を50%以上に向上する」目標に向けて、自治体、消費者との連携を強化した新たな行動計画である「プラン2010」を立ち上げているところです。

本年度も、「牛乳パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」を全国で開催するとともに、回収ボックスの無償提供による回収拠点10,000ヵ所以上拡大活動の推進など、『全国牛乳パックの再利用を考える連絡会』との連携を強化して消費者への啓発活動を進めてまいりました。また、製品への環境キャンペーン広告掲載、森林の市やエコプロダクツ展への出展など、紙パックリサイクルの普及促進活動を拡大して実施しております。

このたび全国牛乳容器環境協議会の活動を取りまとめ、「紙パックリサイクル年次報告書2007」を発行いたしました。今後とも紙パックリサイクルにかかわる関係者との連携を強化し、普及活動に努力するとともに、学乳紙パックのリサイクルを通して環境教育が進展するよう啓発活動を進めていく所存ですので、ご一読いただき、ご意見、ご指摘をお寄せいただきたくお願い申し上げます。



全国牛乳容器環境協議会
会長

小野田 顕正

2007年2月

紙パック回収率向上のための アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下 容環協)では、「2010年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率・リサイクル率向上を目指しております。具体的な取り組みは以下の通りです。

【目標】
紙パック回収率
2010年度 **50%以上**

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進する。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開してまいります。

【主な取り組み】

- ①牛乳パックリサイクル促進地域会議および牛乳パックリサイクル講習会の開催。(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下 全国パック連)と共催)
- ②モデル地域集中プロジェクトによる地域回収ルートの普及拡大。(全国パック連と共催)

- ③回収ボックス提供による10,000ヵ所拠点拡大のさらなる展開。(全国パック連と協働)
- ④自治体への協力。(メッセージBOXキット、小冊子、ビデオ等、啓発ツール提供)
- ⑤小中学生に対する啓発促進。(子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パック探検隊」の運営)
- ⑥環境キャンペーン。(商品への環境メッセージ広告掲載)
- ⑦紙パック工作コンクール協賛。
- ⑧紙パックLCA調査研究の活用。
- ⑨環境イベントへの積極的参加。(牛乳パックの再利用を考える全国大会、エコプロダクツ展、森林の市)
- ⑩飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査および、回収量拡大のためのフォローアップ。
- ⑪学校給食用牛乳パックのリサイクル促進モデル事業推進。
- ⑫ホームページの拡充。
- ⑬行政、自治体、市民団体、全国パック連、リサイクル団体、関係事業者等との協議の場を設け、連携強化を図る。
- ⑭再生紙メーカーとの連携強化、リサイクル製品の利用拡大。
- ⑮紙パックリサイクル年次報告書発行。

「容環協」とは?・・・全国牛乳容器環境協議会

「容環協」は、牛乳パックなど紙パックのリサイクルを促進している組織です。

CONTENTS

活動トピックス

全国パック連との連携	2
牛乳パックの再利用を考える全国大会	3
牛乳パックリサイクル促進地域会議	4
牛乳パックリサイクル講習会	6
回収拠点拡大	7
エコプロダクツ2006・森林の市	8
牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール	9
容環協の取り組み	10
LCA調査	13

活動報告ダイジェスト

2005年度の紙パック回収率	14
2005年度 紙パックマテリアルフロー	16

2006年度活動報告

小売事業者のリサイクル状況	18
福祉作業所の回収状況	19
市町村回収・集団回収の状況	20
学校のリサイクル状況	22
再生紙メーカーのリサイクル状況	23

紙パックのリサイクル学

「森林のライフサイクル」と「紙パックリサイクル」	24
容器包装リサイクル法	26

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ	27
会員一覧	28



いっそうの回収率アップを目指し「全国パック連」と連携していきます。

『2010年度紙パック回収率50%以上』という目標達成には、回収量調査(P14)からもわかるように、家庭系紙パックの回収量増加が不可欠と考えられ、そのためには、①スーパー等の店頭回収の促進、②家庭へのリサイクル周知、③再生商品の利用拡大・購入拡大が必要となります。

またその量をまとめるプロセスにおいては、市民の協力が大前提であり、実際の回収ルート構築には、回収拠点を生活エリアに設置し、既存のシステムを有効利用し、お互いにかかわる人の顔が見えるネットワークを作ることが大切となります。

こういう状況の中で、容器包装リサイクル法施行以前から、20年以上に渡る活動実績を持ち、地道な回収ルート作りをし「洗って・開いて・乾かして」という海外からも資源の質を高めるとして注目されている方法を実践してきている「全国パック連」は、市民に向けた啓発、回収ルートの構築上、重要な存在であり、容環協は今後も積極的に協働連携してまいります。

「全国パック連」の20周年イベントが盛大に開催されました。

「全国パック連」の20周年記念集会&記念パーティーが、2006年7月28日(金)に甲府・富士屋ホテルで開催されました。当日は農林水産省西野室長、経済産業省井内課長、丸富製紙株式会社佐野会長の祝辞をはじめ、100人以上が出席される中、長年の歩みを振り返り、和やかな歓談が続きました。

牛乳パック再利用運動は、1984年に山梨県の平井初美氏を代表とする主婦グループから「牛乳パックを捨てるのはもったいない」「ものの命の大切さを子どもたちに伝えたい」という子育ての気持ちがこめられて始まった運動です。全国に広がった再利用運動に取り組む市民団体に情報提供・支援するために、1985年「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」を結成。以降、循環型社会構築、環境保全の普及啓発、環境教育、海外の紙パック再利用活動支援などに取り組んできました。

またこれまでの活動に対し、6月には環境保全功労者賞を受賞。今後も、さまざまな交流や情報発信の場の中心的役割を担われ、いっそうのご活躍を期待します。

第20回の全国大会を活動発祥の地・山梨で開催。

2006年7月29日(土)、30日(日)に第20回全国大会が活動発祥の地、山梨県で開催されました。今年のテーマは、「始めの一步はもったいない 発祥の地からつなぐじゃん!」。容環協も協賛し、関係各社、行政関係者など約500人が参加しました。

1日目の開会セレモニーでは、全国パック連の平井成子代表が、「20年間の歩みを振り返りつつ、その成果をこれからの新たな一歩にどうつなげていくか、一人ひとりが考えていく機会に」と挨拶され、これまでの大会の歩みを振り返るとともに、その運営に携わってこられた全国の多数の方々に感謝の意を表されました。また来賓挨拶では、山梨県知事から「“もったいない”の先駆的取り組み運動である」との評価をいただき、甲府市長から「自分が生きている大地はまだ生まれていない子孫から預かったものだから大切にしよう」とのお話がありました。

またその後、「リデュース(無駄をなくして)・リユース(何度も使って)・リサイクル(生まれ変わって)・レッツ循環型(もったいない)社会」をテーマに記念シンポジウムを開

催。環境省藤井室長からは、容器包装リサイクル法の改正内容の説明をはじめとして、これからの循環型社会推進のためには、消費者、自治体、事業者など、さまざまな主体間の連携が重要とお話がありました。作家・池田香代子氏の「100人村からつなぐ自然・いのち・くらし」の講演もありました。

2日目には5つの分科会が行われ、「もったいないじゃん・ぐるぐるまわして使うじゃん」「牛乳パックの原点は生き方と子育て」「ちよっくら寄って食ってけし!~話して・食べて・考える~」「コラボレーションでお仕事しようず」「牛乳パック全国情報交流会」のテーマについて、自治体、市民団体、事業者が討論し、事例紹介や意見交換が熱心に行われました。

「地域持ち回りの実行委員会方式による大会の開催は、とりあえず今回をもって一区切りとし、また新しい形でさまざまな交流や情報発信の場を設けていくので、そこで再会しましょう」との平井代表の約束表明があり、盛況のうちに終了となりました。



全国パック連 平井代表



丸富製紙 佐野会長



全国大会交流会



容環協展示コーナー



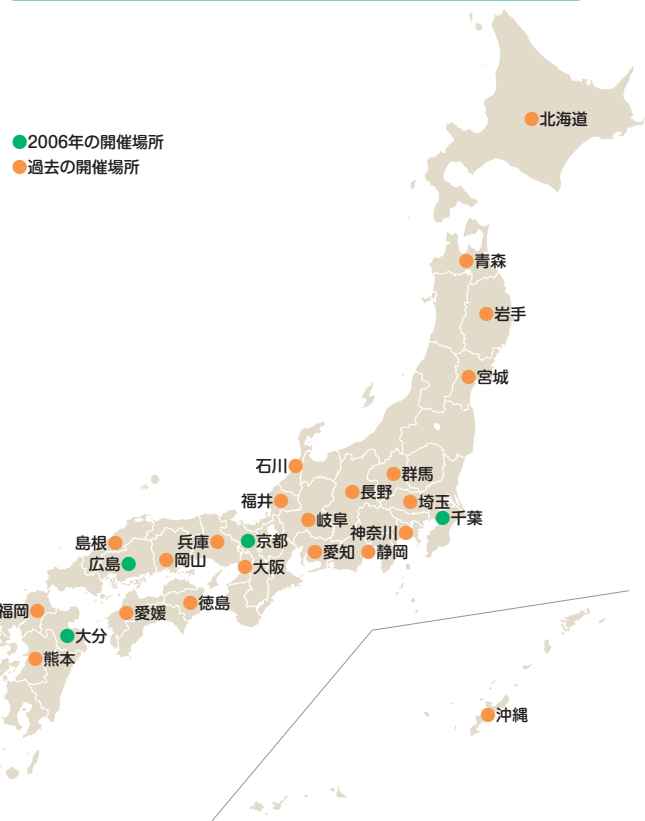
牛乳パックリサイクル促進地域会議

牛乳パックリサイクルにおける地域ごとの課題や現状を把握。

容環協と全国パック連の共催により、全国各地で開催している「牛乳パックリサイクル促進地域会議」。2006年も大分を皮切りに、広島、京都、千葉の4ヵ所で開催されました。この会議は、牛乳パックのリサイクルにおいて、地域ごとの課題や現状を把握することを目的にしており、同時に関連施設の視察も行われています。

各会議とも自治体、関連メーカー、市民団体など、多彩なメンバーの参加を得て、さまざまな事例を紹介。関係者が相互に理解を深め、よりいっそうリサイクルを推進していくことを誓い合いました。

地域会議の開催場所



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 大分／大分市

- ◆開催日 2006年1月19日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、製紙メーカー、古紙事業者、福祉作業所、市民団体など計35名

【主な報告や問題提起】

- 大分県では21市町村のうち、8市町村が紙パックを分類して分別収集。別府市では5ヵ所の拠点回収やスーパー店頭回収を行っています。多くが燃えるゴミに含まれているのが現状。
- 福祉作業所、市民団体からは、年間25トン集まっていた紙パックが、行政による資源回収が始まり12トンに半減したとのこと。
- 再生紙メーカーから、中国への輸出の関係で古紙原料が不足しており、学乳パックは歩留りが悪いが、「洗って」「開いて」質が向上した物なら、積極的に取扱いたいとの意見がありました。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 広島／広島市

- ◆開催日 2006年2月2日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、製紙メーカー、古紙事業者、福祉作業所など計42名



【主な報告や問題提起】

- 広島市では家庭系ゴミの有料化で、ゴミが34%減量、資源物が15%増加。

- 古紙業者からは、運賃コストを抑える点から、家庭の紙パックも学校に集めてもらおうと、量がまとまり効果的との意見がありました。
- 乳業メーカーからは、空容器は持ち帰りしないことになっているが、牛乳普及協会で学乳パックリサイクルの補助をしているので、活用してほしいとのこと。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 京都／京都市

- ◆開催日 2006年6月22日(木)
- ◆参加者 自治体、乳業メーカー、古紙事業者、福祉作業所、市民団体など計46名

【主な報告や問題提起】

- 京都市から、行政と市民の協働によるゴミ減量推進会議の取り組みの報告があり、1999年から学乳パックのリサイクルを実施。オリジナルのトイレットペーパーの販売も行っているとのこと。
- 家庭の紙パックを学校で回収したり、市民センターなどに回収ボックスを設置するなどして、回収促進に取り組んでいます。今後は喫茶店チェーンの掘り起こしや1,000ml以外の紙パックに目を向けることも有効では、などの報告がありました。
- 福祉作業所からは、はがき以外に手すき名刺など用途開発も必要で、出口を広めるため企業の協力もお願いしたいとの報告がありました。



牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 千葉／千葉市

- ◆開催日 2006年11月29日(水)
- ◆参加者 農水省、自治体、乳業メーカー、古紙事業者、市民団体など計39名

【主な報告や問題提起】

- 農水省からは、学校における環境教育の取り組み推進を法制化するが、小学生からの環境教育の必要性からみて学校給食の牛乳パックのリサイクルは役立つのでは、とのこと。
- 自治体からは、県のゴミリサイクル率は全国3位以内であるが、紙パックのリサイクル率は低いものの他のリサイクルにつながる波及効果もありさらに取り組む、とのこと。市では、昨年はモデル地区の拠点回収、集団回収を進め、今年10月から全域に拡大し効果が上がってきている、とのこと。
- 学校での取り組みは、区市、教育委員会、学校、校長会、PTAで協議を始め話し合っって少しずつ進めることが大事、草加市の努力の事例や回収ルート関係の紹介など協力できるので主催者側へ相談を。
- 古紙事業者からは、紙パックは1,000mlだけでなく500mlや清涼飲料でも回収可能であることをもっと周知しては、とのこと。





牛乳パックリサイクル講習会

回収拠点拡大

全国で開催。
子どもたちとリサイクルを
体験しました。

回収ボックス提供個数が、
間もなく目標の10,000個に。

紙パックリサイクルの現状を把握し、実際の回収ルールを体験してもらうことで、牛乳パックの回収に興味・関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。

2006年は大阪2ヵ所、別府、西宮、旭川、豊洲(2回)、筑西、松山で開催。各講習会で、リサイクルの現状を報告するとともに、「洗って・開いて・乾かして」という回収ルールも体験。参加した子どもたちにも、牛乳パックのリサイクルを身近に感じてもらう一日となりました。

【西宮】

西宮市では、環境学習都市を宣言して地域福祉モデルを立ち上げ、牛乳パックの回収・リサイクルを積極的に推進しています。当日は、あいにく雨模様でしたが、リサイクル活動推進中の「社会福祉法人新生会作業所」からの参加者もあり、手すきはがき作りや手作り工作教室を実施しました。

【大阪】

夏休みも終わりに近づいた8月26日(土)、大阪市立鶴見区民センターに、「鶴見区母と子の共励会」の呼び

かけで43名が集まりました。牛乳パックの特徴やリサイクルの意義を理解した後、紙すき、工作を実演。夏休みの宿題として子どもたちに大好評でした。

【旭川】

明治乳業(株)旭川工場で開催しました。紙パック回収運動の歴史や森林の有効利用などを説明しました。その後、2班に分かれ、工場見学と手すきはがき作りを体験。回収された紙パックがいろいろな方法でリサイクルされることを実感していただきました。

【豊洲】

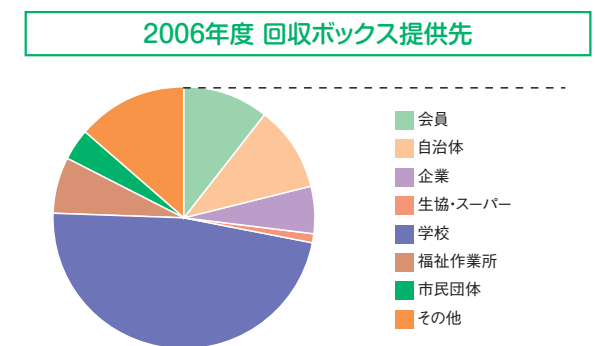
8月に実施された食育イベントに、見学に来られた自治会役員のご努力により開催が決まりました。10月22日(日)、豊洲・東京フロントコート集会室で実施。紙パックリサイクルの説明、事例ビデオ鑑賞に続き、手すきはがき作りや工作に挑戦。子どもたちも紙パックリサイクルへの理解を深めました。



容環協では2001年より回収拠点の拡大を目指して、回収ボックスの提供を進めてまいりました。提供数は、下表のように着実に伸張し、目標とした10,000ヵ所に手が届くところまでできました。

回収ボックス提供状況		
	各年度合計	年度累計
2001年度	930個	930個
2002年度	1,275個	2,205個
2003年度	1,415個	3,620個
2004年度	1,725個	5,345個
2005年度	2,270個	7,615個
2006年度(12月末まで)	2,050個	9,665個

2006年度の提供先を見てみると、学校関係が最も多く、自治体、福祉作業所、会員・企業、市民団体などに提供されています。



回収ボックスの提供先では、新たな回収拠点として多くの紙パックが集められています。提供の半年後に行っているアンケートには、「回収ボックスはよく目立ち、子どもたちも興味を引かれて、多く持ってくるようになった」といった意見が多く寄せられています。

また「回収された紙パックがどのようにリサイクルされて、どんな物になるのか?」という疑問にお答えするために、回収ボックスとともに、リサイクルの工程を示し、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙ひもなど、紙パックから作られる再生品の展示も行うなどの啓発ツールをセットにした「メッセージBOXキット」も、主に市町村のリサイクルセンターなどに設置させていただいております。

容環協では10,000個達成後も、継続して回収拠点の拡大を目指してまいります。さらに、これまでみなさまからお寄せいただいたご意見を参考に、現在、第2世代の回収ボックスを企画中です。

- 中に入れた紙パックを取り出しやすく
 - もっと、子どもたちから愛されるデザインを
- 等々、より良い回収ボックスを目指しておりますので、ご期待ください。





クイズや工作コンクール表彰式も。国内最大級の環境展に出展。

【エコプロダクツ2006】

2006年12月14日(木)～16日(土)に東京ビッグサイトで開催された国内最大級の環境展「エコプロダクツ2006」に出展しました。

ブースは「全国各地の牛乳パック展示」を中央に、「森林の恵みから生まれた牛乳パック」「牛乳パックリサイクル」などを紹介。「第6回牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の優秀作品を展示するとともに、表彰式も行いました。また全国パック連の協力による「手すきはがきづくり」のブースやNPO法人「集めて使うリサイクル協会」なども出展されました。

今年はクイズも実施し、来場者の方々に自然に牛乳パックやリサイクルへの興味が深まる楽しいイベントとすることができました。



にぎわうブース



新企画クイズコーナー



工作コンクール表彰式

牛乳パック再生品を販売し、「みどりの募金」に寄付しました。

【森林の市】

2006年4月29日(土)～30日(日)の両日、日比谷公園にれのき広場で、「平成18年度森林の市」が開催されました。全国各地から参加されている環境団体、学校、ボーイスカウトなどの団体とともに、容環協も出展しました。

牛乳パックリサイクルのパネル展示と自主グループ「たんぼぼ」の協力を得て牛乳パックを再利用した製品、工作・工芸などの作品の展示と実演を行い、希望される方々に牛乳パックの特質を体験していただきました。また、今年も再生紙メーカーの協力を得て、牛乳パックを原料とした再生品(トイレペーパー)をチャリティー販売し、売上金を「みどりの募金」に寄付しました。



過去最多の応募作品の中から、林杏奈さんが最優秀賞に!

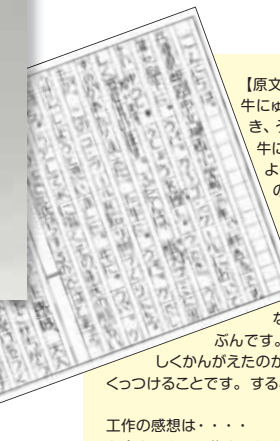
全国の小学生を対象とした「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が今年も開催されました。過去最高の2,794件の応募の中から最優秀賞に選ばれたのは、林杏奈さん(兵庫県 小学3年生)の作品「あ～した 雨になあ～れ」。完成度の高さに加え、実用性があり、耐水性・強度という牛乳紙パックの特性を活かしたことが、高く評価されました。また、全国牛乳容器環境協議会賞には、山本恭輔くん(千葉県 小学3年生)の作品「牛乳

最優秀賞作品「あ～した 雨になあ～れ」



林杏奈さん(兵庫県 / 小学3年生)

受賞感想文



【原文】こんにちは。兵庫県姫路市立城西小学校三年、林杏奈です。第6回牛にゅうパック～コンクールにおいて、さいゆうしゅうしょうを授けようでき、うれしく思います。ふだんは、粗大ゴミに出すのがあたりまえだった牛にゅうパックでしたが、このコンクールを知り、物づくりにちょうせんしようと思いました。牛にゅうパックの持ちようとして水に強くそのまもの形をいかせばしょうぶで長持ちするのではと考え、カサ立てを思いつきました。工夫した所は、大人用、私用、弟用とそれぞれカサの長さがちがうので、つつの高さをかえました。水受けをつくりスライドしてとれるようにしました。カサたてがあてているように土台の中には、砂をいれています。牛にゅうパックどうしをつなげる時は、中にカセットケースをつめこむとパックがかたまりのようになり、セロテープでまきやすくなりました。一番やんだのが足のふんです。円のつつの足だけではカサの重みやゆれでとれてしまったので、新しくかんがえたのがつつの上と下に切れ目を入れて、タコのきゅうはんのようにひろげてくっつけることです。するとカサ入れと土台がすいつくようにあてていました。

工作の感想は・・・
お金をつかって物を買うより身近なそんざいの牛にゅうパックを使って、何日も何日もかけて自分の手で世界で一つだけの心こもった作品をつくりあげた、うれしさでいっぱいです。リサイクルにたいしての考え方を学ぶことができ、このコンクールに感しゃしています。2794作品みんなの気持ちこめて、かんげい者のみなさまありがとうございました。



エコプロダクツ2006での表彰式



容環協の取り組み

牛乳パックのリサイクルは地球環境を守る活動であることをメッセージ。

【環境メッセージ掲載キャンペーン】

毎年6月の環境月間と10月の3R推進月間に合わせ、牛乳パックに「うえる→そだてる→つかう→リサイクル」の環境メッセージを掲載し、紙パックの回収率をより向上させるためのキャンペーンを実施しています。イラストで、苗から始まり、リサイクル製品に変わる牛乳パックの一連のフローを示し、牛乳パックの原紙は、植えて、育てて、切ったらまた植える、という管理された森林資源を原料としており、枯渇するものではないとアピールしています。

このキャンペーンは2004年10月にスタートし、2006年10月で5回を数えました。今年のはべ43社の協力を得て、環境メッセージが掲載された牛乳パックは2ヵ月間で約2,500万本となっています。



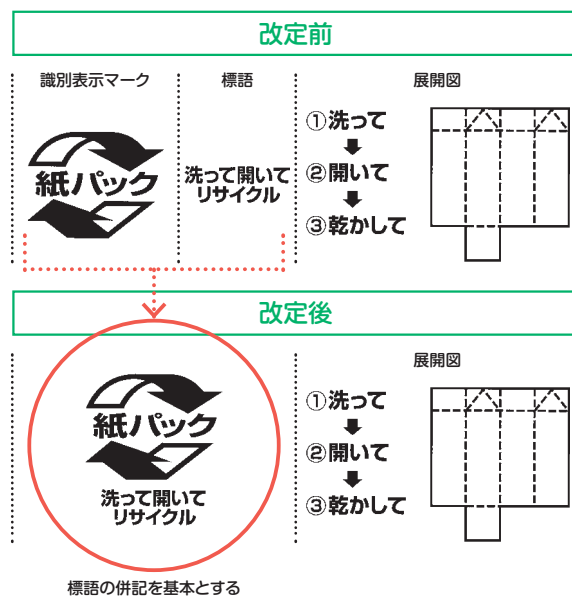
紙パックの識別マークのガイドラインを改定しました。

【ガイドラインの改定】

飲料用紙容器（アルミ利用を除く）、略称「紙パック」のリサイクル促進の一環として、容器包装リサイクル法の完全施行（平成12年4月）に対応して制定された識別マークのガイドラインを改定しました（2006年6月）。

従来は、識別マークの使用を基本とし、これに標語「洗って開いてリサイクル」と展開図を組み合わせて表示することを認めていました。その他の容器包装と識別することに加え、紙パックリサイクルをさらに啓発することを狙いとして、改定後のガイドラインでは識別マークに標語を組み合わせて使用することを基本としています。

また、これまでは環境メッセージ掲載キャンペーン時に、リサイクルに協力してくださっていることに対してのお礼の意味をこめて、注ぎ口と反対側の面に掲載していた「リサイクルありがとう」の表示は、環境キャンペーンに限定せず通年で掲載することにいたしました。



消費者のみなさんに届くチラシでリサイクルを働きかけました。

【啓発チラシの配布】

牛乳パックのリサイクルを促進するために、チラシを用いて消費者の方に啓発活動を行っています。2006年に新たに作成したチラシをご紹介します。



回収率向上を目指して西播地域集中プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトを効果のあるものにするため、小売事業者からの提案で、回収ルールの徹底とリサイクルに感謝する気持ちを表現したチラシを作成しました。なお、回収ボックスの上に張り出せるB2判のポスターも作成しました。



会員各社の工場見学者や料理講習会等のイベントに集まっていた方々に配布し、リサイクルを促進するために作成しました。（社）日本乳業協会と全国牛乳パックの再利用を考える連絡会の連名ですが、希望によって各会社名を入れることが可能な共通チラシになっています。

食育イベントに参加。食と環境を考えるよい機会に。

【第3回「親子で楽しく食育体験」】

2006年8月26日（土）、27日（日）、東京都食育推進ネットワーク、農林水産省農政事務所主催の第3回「親子で楽しく食育体験」に、（社）日本乳業協会と共同で出展しました。会場となった東京・江東区の深川政府倉庫は、お米の巨大貯蔵施設で、管理された森林の恵みから生まれた紙パックのパネル展示、リサイクル製品、紙パックを利用した工作等を展示。「牛乳飲んでますか?」「飲み終わった紙パックは、リサイクルお願いしますね!」と来場者に呼びかけました。年配者から親子連れまで幅広い年齢の方が訪れ、お米倉庫探検やクイズラリー、ザリガニつりなどさまざまなイベントに触れながら、食育と環境について考える有意義な一日となりました。



展示ブース





容環協の取り組み

LCA調査

環境・リサイクル情報や活動報告をホームページで発信しています。

【ホームページによる情報提供】

2005年4月に将来3Rを担う子どもたちを対象にオープンした環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」。森林資源から牛乳パックが誕生し、飲み終わった後にリサイクルされ再生品になるまでを取り上げ、牛乳パックリサイクルの意義や環境とのかかわり、環境負荷を低減する提案などをキャラクター「牛乳パックン」を使ってわかりやすく解説しています。また容環協ホームページについては、毎月最新情報を掲載し、活動報告やリサイクルに関する内容を充実させています。

2006年11月末現在、「牛乳パックン探検隊」は累計でアクセス数約80,000、容環協ホームページは約250万で、多くの方にご覧いただくことで、活動啓発に役立っています。



牛乳パックン探検隊
http://www.packun.jp



全国牛乳容器環境協議会
http://www.yokankyo.jp

番組キャスター自らが手すきはがき作りに挑戦。

【ラジオ番組に協力】

2006年9月、日本酪農乳業協会(J-Milk)がスポンサーになっているニッポン放送「ミュウコミ サポーターズパーティー」で、牛乳パックを集め、手すきはがきを作るという企画があり、容環協よりエコプロダクツ展などでお世話になっている町田シルバー人材センターをご紹介します。取材協力しました。キャスター自らが作った牛乳パックの手すきはがきは、ちょっと遅めの残暑見舞いとして、リスナーのみなさんに届けられました。



紙パック回収の理解促進に役立つ説明会を開催。

【所沢市で説明会】

520あまりの集団回収登録団体がおり、活発な活動を行っている埼玉県所沢市の環境クリーン部廃棄物対策課の依頼により、「紙パックリサイクルの現状について」と題した説明会を行いました。現在、紙パックの収集を行っているのは20団体程度とのことですが、今回の説明会で紙パック回収への理解が増し、紙パックの回収に協力する団体が増えることを期待します。

日本の代表的な紙パック3種のLCIデータを整備しました。

容環協では、2003年度よりLCA^{※1}の調査委員会を編成、(財)政策科学研究所と協働で紙パックのLCIデータの構築を実施してきました。2004年度には、本調査の成果(途中経過)として、紙パックLCI調査委員会報告書をまとめて公表すると同時に、環境省が2002年度から3ヵ年事業として実施していた各種飲料容器のLCA調査事業にも情報やデータを提供しました。

引き続き2005年度には、目的を下記3点に絞ったLCIデータの整備を進め、このほど成果を報告書^{※2}にまとめることができました。

①コンビニエンスストアなどで販売量が増えている「屋根型500ml紙パック」や学校給食を中心に使用されている「屋根型200ml紙パック」といった新たな種類の紙パックに関するLCIデータの構築

②森林管理から紙パック原紙の製造プロセスに関するLCIデータの更新(2004年度の北米大手製紙メーカーのデータに加え北欧製紙メーカーのデータを収集)
③「屋根型1,000ml紙パック」製造プロセスに関するLCIデータの更新(大手紙パックメーカー3社・5工場のデータを収集)

特に②、③は2004年度より対象事業者数を増やして、カバー率60%以上でデータを収集することによって、LCIデータの代表性を高めることを目指しました。

これらの成果の概要として、日本の代表的な紙パック(アルミを使用していないもの)3種類のLCIデータを下に示します。さらに詳細な内容が必要な方は、報告書を提供していますのでご参照ください。

資源採取・資源採掘から紙パック製造までを統合したインベントリデータ

カテゴリ	環境負荷項目	単位	紙パック1個あたりのインベントリ (資源採取・資源採掘から紙パック製造までを統合)			
			2005年度調査			2004年度調査 ^{※3}
			屋根型 1,000ml	屋根型 500ml	屋根型 200ml	屋根型 1,000ml
資源	木材資源消費量	kg	0.077245	0.053115	0.024557	0.078618
	水資源消費量	l	3.242429	2.226136	1.022418	3.409968
	化石資源消費量	MJ	0.205897	0.141579	0.065457	0.205902
エネルギー	エネルギー消費量	MJ	1.037322	0.713776	0.328979	1.024885
廃棄物	廃棄物排出量 ^{※4}	kg	0.002732	0.001866	0.000849	0.003209
	CO ₂ 排出量 ^{※5}	kg-CO ₂	0.026646	0.018214	0.008389	0.027551
大気圏排出	バイオマスCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	0.045533	0.031310	0.014475	0.036376
	NOx排出量	g-NOx	0.140242	0.095409	0.044641	0.117558
	SOx排出量	g-SOx	0.054232	0.037254	0.017210	0.038080
水圏排出	BOD排出量	g	0.034796	0.023927	0.011062	0.023830
	COD排出量	g	0.000150	0.000103	0.000048	0.000150
	SS排出量	g	0.051170	0.035186	0.016267	0.061752

※1 ライフサイクル・アセスメント
 ※2 2005年度全国牛乳容器環境協議会紙パックLCI調査委員会報告書～飲料用紙容器のインベントリデータに関する調査研究～(2006年11月・全国牛乳容器環境協議会発行)
 ※3 2004年度にも屋根型1,000mlインベントリデータを取りまとめており、参考に記載しました。
 ※4 廃棄物排出量は、各プロセスから排出されリサイクルや中間処理された後の埋立量です。
 ※5 CO₂排出量はバイオマス由来以外のものを対象としています。